

## 1 主題 物やお金を大切に（節度，節制）

### 2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは，身の回りの物を大切に使っている。このことは，色鉛筆を順番に並べて片付けたたり，入学当初に家族から買ってもらった筆箱を使い続けていたりする姿からうかがえる。しかし，苦手な給食を残してしまったり，物を乱雑に片付けて，壊れるとすぐに新しい物を買ってもらったり，物を大切にできていない子どもも少なくない。

<主題について>

本主題は，物や金銭を大切にしようとする心情と実践意欲を育むことをねらっている。ここでは，物は多くの人の努力と勤労によって作られていることに気付かせ，物や金銭を大切にしたい生活について考えを深めさせたい。そこで，教材「じしんがおきて」を読み，地震が起きた後の人々の変容や登場人物のまなみが新しい物を買わなかった理由を基にして，物に対する自分考えや物を買う際の経験を交流し，まなみの変容について話し合わせる。このような活動を通して，物には多くの人の努力と勤労によって作られていることに気付くことができるだろう。そのような子どもたちに，これからの生活において大切にしたいことや理由を考えさせることで，さらに物や金銭を大切にしようとする意欲を育てることができると思う。

そこで，指導にあたっては，次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 導入で交流した新しい物が欲しいという思いと，新しい下敷きを買わずに募金をしたまなみの行動とを比較させる。そうすることで，問題意識をもってまなみの葛藤について共感することができるようにする。
- 地震が起きなかったら新しい下敷きを買うかという条件を変更した発問をする。そうすることで，地震がなくても日常的に物や金銭を大切にすることがよいことであることに気付き，実生活につなげて考えることができるようにする。
- 地震が起きなかったとしても物や金銭を大切にすることがよいという気付きを基に，これからの生活で大切にしたいことや理由を考えさせる。そうすることで，今ある物を大切にしたい気持ちを深め，実生活においても自らが物や金銭を大切にしたい行動する際の実動力とすることができるようにする。

### 3 教材のあらすじ

「じしんがおきて」

出典：学研教育みらい みんなのどうとく1年

大きな地震が起きた。まなみの家はパン屋をしていて，店の中のいろいろな物が落ちて大変な状況となったが，まなみの父は食べ物がなくて困っている人のためにパンを作って届けた。学校では，野菜が津波で流されたことや牛を飼っている人が困っている話を先生から聞いた。そこで私にできることをまなみは考え，給食を残さず食べ，新しい下敷きを買わずに今の下敷きを大事に使おうと決めた。

#### 4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えます。

本学園の道徳部では、道徳的諸価値についての理解を基に、物事を多面的・多角的に考えながら、自己のよりよい生き方についての考えを深める授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。

また、エージェンシーが育まれている姿を、道徳的な問題を自分事として捉え、他者と協同しながら、自己の道徳的価値観を追求し、納得解や最適解を得ている姿だと捉えている。

エージェンシーを育むために、教材における内容項目を基に学習内容を設定し、焦点化できる導入を行うことで、教材内の道徳的問題を自分事として捉えることができるようにする。さらに、共感的な発問や分析的な発問を通して、問題意識を高められるようにする。そこに、教材内の条件変更をした発問や再思考を促す発問をすることで、教材と実生活とを結び付けながら自己の道徳的価値観を追求し、納得解や最適解を得ることができるようにする。

このような学習を経験した子どもは、VUCA（予測困難で不確実、複雑で曖昧）な時代を生きいくために、実生活において「自分は何をすべきなのか」を考えたり、「自分がしたことは正しかったのか」を問い直したりする際に道徳科で育まれたエージェンシーを発揮し、よりよい生き方を実現していくようになり、well-beingの実現につながるだろう。

#### 5 節度、節制（内容項目）に関わる学習の系統性

学年	教材名 (学研教育みらい)	主題名	学習内容
1	かぼちゃのつる	わがままをおさえて	わがままをしないで生活を送ることが快適な毎日につながる事
1	大あわてのトラッピー	気もちのよい生活	どのような状況であっても、身勝手にわがままな行動や発言をしないで、周りの人のことも考えること
1 (本時)	じしんがおきて	物やお金を大切に	物は多くの人の努力と勤労によって作られていること
2	おにいちゃん、しっかり	わがままをしないで	健康や安全に気を付けることや物や金銭を大切にすること
2	グローブのへんしん	いつまでも大切に	人の意見を聞いたり、自分のできることを考えたりすることのよさに気付くこと

関連する絵本教材

- ・「いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日」 発行所：講談社
- ・「たいせつな牛乳」 発行所：白泉社
- ・「もったいないばあさん」 発行所：講談社
- ・「いっぼんの鉛筆のむこうに」 発行所：福音館書店
- ・「地震がおきたら」 発行所：BL出版

6 本時案

- (1) ねらい 地震が起きた後の人々の変容やまなみが新しい物を買わなかった理由を話し合う活動を通して、物は多くの人の努力と勤労によって作られていることに気付き、物や金銭を大切に生活しようとする心情と実践意欲を育てる。
- (2) 準備 挿絵 地震直後の写真 など
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 新しい物が欲しい気持ちについて交流する</p> <p>新しい物が欲しいという気持ちがわかるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葛藤する気持ち</li> <li>新しい物が欲しいことへの共感</li> </ul>	<p>ア わかるよ。新しい物を見ると欲しくなってしまうよ</p> <p>イ 誰かが新しい物を持っていると自分も欲しくなってしまうな</p> <p>ウ わかるけれど、今使っている物を大切にしたい気持ちもあるよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今使っている物があるのにも関わらず、新しい物が欲しいという経験について問うことで、教材のまなみに共感することができるようにする</li> </ul>	5
<p>2 範読を聞き、地震が起きた後の周りの変化やまなみの変容について話し合う</p> <p>なぜまなみは変わったのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震が起きた後の人々の大変さ</li> <li>物を大切にすること</li> </ul> <p>地震が起きなかったら新しい下敷きを買うか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今ある物を大切に使うこと</li> <li>物を大切にすること</li> <li>物が多くの人の努力と勤労によって作られていること</li> </ul>	<p>ア 苦手と言って食べないのはもったいないからだよ</p> <p>イ お父さんのパンと同じように心が込められていると思ったからだよ</p> <p>ウ 地震が起きて大変な人が多くいるから、まなみも我慢しようと思ったのかな</p> <p>エ 新しい下敷きを買わなければ募金ができるからだよ</p> <p>ア 買ってもしよいかと思うよ。欲しい気持ちが強いからね</p> <p>イ でも、まだ使える下敷きがあるのに、新しい物を買う必要はないよね</p> <p>ウ 地震がなかったとしても、今使っている物を大切にしたいと思うよ</p> <p>エ 物には作った人の思いが込められているから、大切に使う方がいいと思うよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作り手側の気持ちを考えさせることで、当たり前のように食べている物や新しい物を買ったりする行動の裏側には、様々な人の思いや努力があることに気付くことができるようにする</li> <li>地震が起きなくてもとった行動かを問うことで、日々の生活から物を大切にすることの意味や理由を考えることができるようにする</li> </ul>	35
<p>3 生活の中で大切にしたいことを話し合う</p> <p>これからの生活で大切にしたいことは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物や金銭を大切にしようとする意欲</li> </ul>	<p>ア 給食を減らすことが多かったけれど、食べ物にも思いが込められていることが分かったからできるだけ食べたいな</p> <p>イ 物がなくなったら、まずは探したいな。家族が一生懸命働いて買った物だから</p> <p>ウ 入学のときにおばあちゃんに買ってもらったランドセルを大切に使い続けたいよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実生活において、これから大切にしたいことやその理由を考え、話し合わせることで、物や金銭を大切にしようとする意欲をもつことができるようにする</li> </ul>	45

(4) 評価の観点と方法

物や金銭を大切にすることのよさを基に、今後の生活の在り方を考えようとしていたか、発言やノートの記述からみとる。

<メモ>